

尾瀬ネットワーク通信

Vol 13. No. 1 2010年5月



目次	
主たる事務所の福島県移転を承認	・・・1
2010年度 定期総会報告	・・・2
救護研修会報告	・・・3
会員へのアンケート集計結果報告	・・・3
事務局よりお知らせ	・・・4

総会で主たる事務所の福島県移転を承認

～福島本部、群馬支部、千葉事務局の新体制へ～

理事長 永島 勲

4月17日、さいたま市で開催した尾瀬自然保護ネットワークの平成22年度定期総会において、主たる事務所の福島県移転をはじめとする新体制が満場一致で承認された。

新しい組織体制

現在の東京都千代田区永田町の主たる事務所（以下「本部」）は、平成9年3月のネットワーク設立当初から、株式会社SEC様の事務所をお借りして登記し、事務局も同所に開設して今日に至っている。

同社並びに椎名社長ご夫妻のご好意により永年にもわたりネットワークの本部・事務局として事務所を提供して頂き、多大なご支援を賜りましたことに対し、心から御礼申し上げます。

この間、尾瀬を取り巻く状況も大きく変化し、行政や尾瀬保護財団等が地元志向を強めている。

尾瀬の新しい時代にふさわしいボランティア団体として現地現場主義をより一層明確にし、尾瀬国立公園全体をバランス良くカバーするため、尾瀬の地元である福島県に福島本部を設置し、群馬県に群馬支部を設置することとした。

さらに、会員への連絡及び環境省、緑の地球防衛基金、日本自然保護協会等の関係団体への対応窓口として、また情報の一元化等のために、本部とは別に首都圏に事務局を設ける。

福島本部は福島県岩瀬郡鏡石町の円谷理事方に、群馬県や片品村及び尾瀬保護財団等の連絡窓口として群馬支部は群馬県高崎市の清水理事方に、首都圏の事務局は千葉市の前田理事方にそれぞれ設

置する。

本部の移転にはNPO法人としての東京都並びに福島県の認可が必要になるため、新体制による活動開始は8月頃になる見込みである。

理事の改選

今年度は理事改選期に当たり、本総会において会計担当の大橋文江理事が退任し、後任として尾瀬自然保護指導員の伊藤アケミ氏（東京都）が就任した。他の9名の理事及び2名の監事はそれぞれ留任が承認された。

理事（留任）：磯部義孝（副理事長）、椎名宏子、鎮目安康、清水博之（群馬支部長）、高橋喬、

円谷光行（事務局次長）、永島勲（理事長）、初谷博、前田佳胤（副理事長兼事務局局長）

監事（留任）：深山美子、長島睦代

大橋理事は9年間にわたり2代目の会計担当理事として本会の発展にご尽力を頂き、深く感謝申し上げます。

平成22年度の活動計画

既に5月の残雪量調査・尾瀬沼の空き缶回収及

び救護研修は実施済みであるが、土日を中心に入山者への啓発活動を福島側は御池～沼山峠口間のシャトルバス内で、群馬側は鳩待峠にて実施する。調査活動は野生ジカの食害調査及び地球温暖化影響調査を行う。観察会・研修会として至仏山登山道観察会、笠ヶ岳自然観察会及びフォローアップ研修（アヤマ平）、只見川上流部観察会等を計画。

8月には尾瀬自然保護指導員養成講座を開講する。新たな体制の下で「尾瀬の貴重な自然を後世に伝える」ために、会員各位の活動への積極的な参加を期待したい。



【平成22年度定期総会、大宮ソニックシティにて】

2010年度 定期総会報告 (敬称/役職省略)

1. **日時** : 2010年4月17日(土) 13:00~16:30
 2. **場所** : 大宮ソニックシティビル 902会議室
 3. **出席者** : 27名、**委任状** : 35名、**正会員数** : 92名
 4. **出席者氏名** : 荒尾、磯部、伊藤、牛木、大橋、大山、加藤、亀山、小鮎、坂本、椎名、鎮目、東雲、清水、鈴木、高橋、円谷、永島、長島、西山、初谷、藤田(隆)、藤田(秀)、前田、松澤、深山、吉田
 5. **進行/開会宣言** : 磯部、**議長** : 永島、**記録** : 椎名
議事録署名人名 : 坂本、松澤
 6. **理事長挨拶** : 永島
 7. **議題**
 - 1) 2009年度活動報告
 - ①事務局報告 2009年度活動履歴 : 椎名
 - ②活動報告 : 永島
 - ③尾瀬を守る会報告 : 高橋
 - 2) 2009年度会計報告 : 大橋
 - 3) 2009年度会計監査報告 : 深山
 - 4) 定款変更事項 : 永島、磯部
 - 5) 2010年度活動計画
 - ①入山指導 福島側 : 円谷、群馬側 : 清水
 - ②観察会・研修会 : 前田
 - ③シカ食害調査 : 円谷
 - ④地球温暖化の影響調査 : 初谷
 - ⑤指導員養成講座 : 前田
 - ⑥尾瀬を守る会活動計画 : 高橋
 8. **議題の主な内容**
 - 1) 2009年度活動報告
永島理事長が、全ての活動報告を行った。
また、尾瀬を守る会報告を高橋理事が行った。
 - 2) 定款変更事項
 - ①主たる事務所の移転に関して
事務所移転の理由を永島理事長が説明し、磯部副理事長が補足した。
主たる事務所(本部)の所在地 :
福島県岩瀬郡鏡石町旭日町19番地
 - ②任期満了に伴う理事交代に関する事項
2010年5月31日をもって任期満了し、退任する大橋理事に代わり、伊藤アケミ氏が就任した。他の理事・監事は、留任となった。
 - 3) 2010年度活動計画
 - ①福島県側入山指導等(担当 : 磯部、円谷)
調査活動 5月3日(月)、
第1回目 5月29日(土)、30日(日)
第2回目 6月12日(土)、13日(日)
第3回目 7月16日(金)~18日(日)
第4回目 8月28日(土)、29日(日)
特別研修 9月18日(土)~20日(月)
第5回目 10月9日(土)、10日(日)
 - ②群馬県側活動(担当 : 清水)
・入山指導等 第1回目 : 6月19日(土)
 - 第2回目 : 8月7日(土)
 - 第3回目 : 10月16日(土)
 - ・至仏山登山道観察 : 7月24日(土)
 - ・笠が岳自然観察会 : 9月11日(土)
 - ③研修会・観察会(担当 : 前田)
 - ・救護研修会 : 5月8日(土)
 - ・フォローアップ研修 : 7月10日~11日
 - ・尾瀬ヶ原自然観察会 : 日程未定
 - ④シカ食害調査(担当 : 円谷)
 - ・福島県側 第3回目、第4回目活動に含む
 - ⑤指導員養成講座(担当 : 前田)
 - ・現地研修 8月27日(金)、28日(土)、29日(日)
 - ⑥尾瀬国立公園域における地球温暖化の影響調査(担当 : 初谷)
 - ・移入植物調査/自生植物分布の経年変化/生物季節の気温との関係
 - ・残雪量調査/ライブ画像によるモニタリング調査
 - ⑦会報誌発行 : 年4回(5、8、11、2月)
9. **特別講演**
講師に長野県環境保全研究所 循環型社会部 温暖化対策班の研究者でご活躍の「浜田 崇さん」をお迎えして、1時間30分の講演をいただいた。
長野県環境保全研究所は、山岳域における調査を長年続けて、多くの発表をしている。その中でも、地球温暖化の影響調査の中心的な活動をしている「浜田氏」により、実践的な活動事例をご紹介していただいた。



地球温暖化が及ぼす植物の影響では、「シラカシの実生が越冬し自生し始めた分布域がより高地に広がりを見せている」など植生の変化が大変興味深い内容であった。

また、すでにネットワークで取り組み始めた残雪モニタリング調査では、画像処理による定量評価などが大いに参考になった。さらに無人観測モニタリング装置や野鳥、植物観察に役立つ道具など最新の情報も披露いただき、出席会員にとり大変有意義な講演であった。

長野県の遠方から来ていただいたにもかかわらず、懇親会にも快く出席いただき、多くの会員との交流も楽しく過ごし、これからもご指導いただける関係が築けたものと確信している。(初谷 博)

救護研修会報告

担当理事 前田 佳胤

5月8日(土)東京・ジャングルムにおいて、昨年に続いて救護研修会を行いました。

尾瀬で必要と思われる「止血法」「三角巾の使い方」「ストッキングを活用した患部固定法」など昨年の研修会のおさらいをし、新たにテーピング法の研修も行いました。簡単な応急処置もすぐに忘れてしまいます。繰り返し研修を行い、万が一現場に遭遇した時に落ち着いて対応できるよう、知識や技能を高めていきたいと思えます。

昨年の研修会報告でも記載しましたが、ザックに入れておく便利なものを、もう一度まとめておきます。

荷物はなるべく軽くコンパクトが原則、救急用品もたくさんは要りません。

- 1、普段飲み慣れた薬(あくまで自分用、副作用の危険もあるので原則として他人にあげない)
- 2、毛抜き
- 3、カットバン…大は小を兼ねるので数多くは不要
- 4、ガーゼ(洗濯したきれいなハンカチ、女性用ナプキン)…ビニール袋等に入れておく
- 5、殺菌・消毒液…出血が少ない時用、多量の出血は水での洗浄のみにする
- 6、水(ペットボトル)…傷の洗浄用



代用品

- *風呂敷、スカーフ…三角巾や包帯の代用になる。山小屋では荷物の整理や防寒具に
- *ライター・マッチ…(濡れないようビニール袋などに包んでおく)
- *ストッキング…三角巾や包帯の代用。防寒や紐にもなる
- *地図、ストック、傘…骨折時の添え木の代用。
- *新聞紙…保温、靴の乾燥

参加者：荒尾繁志、牛木一朗、伊藤アケミ、大橋文江、亀山良吉、椎名宏子、鎮目安康、永島勲、西山伸一、千葉早苗、前田佳胤、松澤登、

会員へのアンケート・集計結果報告

【アンケートの趣旨】

当会は平成9年に発足し、皆様方の多大なご支援により現在95名の会員を擁する組織となりました。

一人でも多くの方に活動に参加していただき尾瀬の自然保護活動の輪を広げるために、会員の意識調査を行い今後の組織運営に活かしたいと考えております。

【集計結果】(用紙送付数：95、回収数：53)

- 1、あなたの性別・年齢を教えてください
 - ・性別：女-12、男-31、無回答-10
 - ・年齢：20代-0、30代-2、40代-5、50代-17、60代-20、70代-7、それ以上-1
 - 2、あなたは正会員(指導員)・賛助会員のどちらですか
 - ・正会員(指導員)-43、賛助会員-8
 - 3、あなたの会員歴を教えてください
 - ・1年未満-2、1年から3年-8、3年から5年-15、5年以上-9、10年以上-18
 - 4、入会の動機を教えてください(複数回答可)
 - ・自然(尾瀬)が好きだから-49、資格(指導員)が欲しかったから-3、知人・友人に誘われたから-6、ボランティアをしてみたかったから-13、なんとなく面白そうだから-2、体を動かしたかったから-3、その他(尾瀬保
- 護団体を存続させるため。退職が近いのでこれから多く参加したい。もっと尾瀬をしりたい。)
- 5、あなたは尾瀬に入山する場合、主にどちらの県からは入りますか。
 - ・群馬側-30、福島側-25、新潟側-1
 - 6、あなたはインターネットを利用していますか。
 - ・利用している-31、たまに利用している-8、利用していない-13
 - 7、(インターネットを利用している方に)会のホームページを知っていますか
 - ・知っている-36、知らない-5
 - 8、ホームページを知っている方に
 - ・よく見る-6、たまに見る-25、ほとんど見ない-6
 - 9、会報「尾瀬ネットワーク通信」に関して
 - ・よく見る-45、ほとんど見ない-5、たまに見る-1
 - 10、会報の投稿に関して
 - ・投稿したことがある-16、全く無い-34
 - 11、会報の内容に関して
 - ・面白い-10、やや面白い-13、普通-22、面白くない-3、面白いという考え方で拝見していない-1
 - 12、会報の内容について、ご希望がありましたら記入してください
 - *会員情報など身近な記事も載せて下さい、

- *今のままでいい、*尾瀬の自然史も知りたい。
- 13、年に1回（4月）の総会は知っていますか
 - ・知っている-50、知らない-2
 - 14、総会の出席に関して
 - ・毎回欠かさず出席する-11、たまに出席する-13、ほとんど出席しない-12、まったく出席しない-10
 - 15、総会に出席しない理由を教えてください
 - ・時間がないから-18、場所が遠いから-10、お金がかかるから-3、関心がないから-1、知っている人がいないから-0、その他（日程があわない-3、土曜日では勤務の都合がつかない-1、介護で時間がない-1、懇親会の会費が高い飲みたい人は二次会で-1）
 - 16、会の活動に関して
 - ・参加したことがある-34、たまに参加する-5、ほとんど参加しない-12、全く参加しない-2
 - 17、活動に参加しない理由を教えてください
 - ・時間がない-17、参加する方法が分からない-1、自信や勇気がなかった-1、関心がない-0、知っている人がいない-1、体調に自信がない-2、その他（高年齢。遠い。）
 - 18、（活動に参加した方に）どのような活動ですか
 - ・シカ調査-18、東面登山道調査-12、入山指導（バス添乗含む）-31、ガイド-8、その他（携帯基地反対運動）-0
 - 19、観察会・研修会に参加しましたか
 - ・よく参加する-9、たまに参加する-23、まったく参加しない-17
 - 20、観察会・研修会に参加しない理由を教えてください
 - ・時間がない-18、参加の方法が分からない-0、自信や勇気がなかった-1、関心がない-0、知っている人がいない-1、体調に自信がない-5、その他（—）
 - 21、会の活動に関して、ご意見・ご要望があり

ましたら教えてください

*群馬側での活性化とプログラムの充実及び強力なリーダーシップ、*活動内容の見直しを望む、*何をしたらよいかわからない状態、*尾瀬以外の自然保護活動も勉強したい、*ホームページの充実を、*活動の日程が重なったり続いたりしているので、考えてほしい、*理事でないと担当になれないようで、発言できない、*年輩者が多く活動の参加者が固定化している

【アンケート結果を読んで】 理事長 永島 勲

この度は53名におよぶ大勢の会員にアンケートのご協力を頂き感謝を申し上げます。

回答者の年齢も60代が20名（38%）、50代が17名（32%）と、いわゆる「団塊の世代」が極めて多く、会員の高齢化が進んでいる。若い会員を増やして、組織の活性化を図ることが大きな課題である。

活動に参加しない理由として「時間がない」（17名、32%）が一番多く、その内訳は仕事が忙しい、介護で長く空けられない等でしたが、ぜひ活動に参加（注）して、保護活動の実践と併せて会員との交流の場として利用して頂きたい。当会の会員は広域に分散しているので、会員相互のコミュニケーションの充実も重要である。その一つである会報が良く読まれている（45名、85%）ことは大変喜ばしい限りであるが、投稿者の拡大や紙面の充実、さらにホームページによるタイムリーな情報発信や双方向通信など優れた機能を有するインターネットの有効活用への取り組み強化も必要である。

「年輩者が多く活動の参加者が固定化している」等々、貴重なご意見も沢山頂戴しました。これらは今後の組織運営に活かしていく所存である。

（注）活動の参加申し込みについて

定期総会資料の裏表紙に「平成22年度行事予定表」がありますので、各担当者に直接電話でお申し込み下さい。

=事務局よりお知らせ=

《寄付金（カンパ）について》

高橋理事著の「保護するものと破壊するもの—自然保護、尾瀬の場合—」を読んだ千葉市の庄子巖様から貴重な遺産“自然・尾瀬”を守るためとして、1万円の寄付（カンパ）を頂きました。

《尾瀬を守る会総会開かれる》

5月19日（水）於：緑の地球防衛基金会議室
出席：高橋、前田

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.13 No.1号 2010年5月20日 発行

発行人：永島 勲

編集担当：鎮目 安康



(1)本部事務所

〒969-0404

福島県岩瀬郡鏡石町旭町19 円谷方

電話 0248-62-4634

(2)群馬支部

〒370-0001

群馬県高崎市中尾町762-16 清水方

電話 027-361-8055

(3)事務局

〒263-0051

千葉市稲毛区園生町1223-11、D-307 前田方

電話 043-252-2604

Web : http://www.geocities.jp/oze_net/